

<参考>

1) アホウドリについて

アホウドリ (*Diomedea albatrus*) ミズナギドリ目アホウドリ科
絶滅危惧 類 (環境省レッドリスト 2006)

分布及び個体数

- ・繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ。
- ・非繁殖期には、北大西洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・1949年の調査で1度絶滅宣言が出されたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。
- ・減少要因は、1890～1900年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

形態及び生物学的特性

- ・成熟個体で全長が84～94cm。
- ・繁殖活動は10月～翌年5月。
- ・7歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。

保護の対策

- ・種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定 (平成5年)
- ・国の特別天然記念物

写真



繁殖ペア (手前はクロアシアホウドリ)



求愛ダンス



巣立ち直前のヒナ (5月)



給餌

2) 環境省のアホウドリ保護増殖事業の経緯

1981年 (昭和56年) より、鳥島の燕崎でアホウドリの生息状況調査及び繁殖地の維持・保全事業を開始し、砂防工事、堆積土砂の除去及び植栽等を行って、繁殖成功率の向上に取り組んできた。

1993年 (平成5年) には種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定すると共に、保護増殖事業計画を策定し、燕崎に対して島の反対側に位置する緩斜面 (初寝崎) に新たな繁殖地を形成するため、アホウドリのデコイ (模型) 及びアホウドリの鳴き声を再生する装置を用いてアホウドリを誘導する事業を開始した。

1993年の推定個体数は約600羽であったが、事業開始後、アホウドリの個体数は順調に増加し、

1999年には1000羽を超えた。

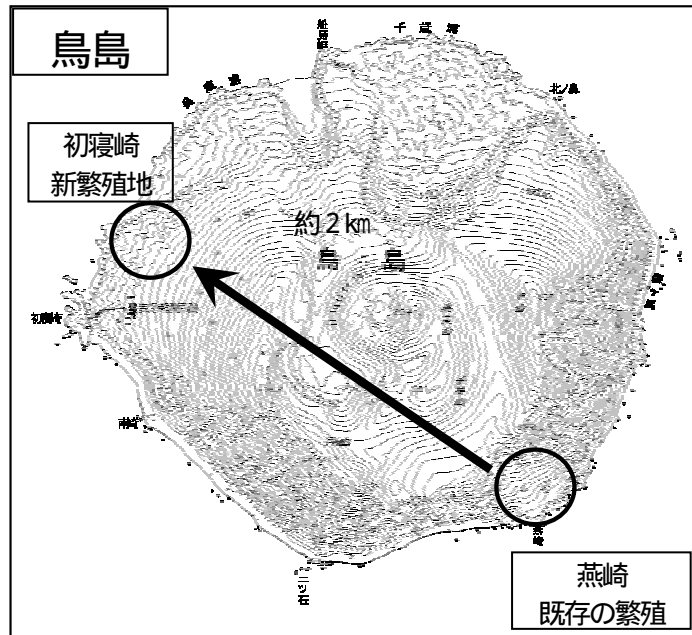
1998年作成の環境省レッドリストにおいて、絶滅危惧 類に引き下げられた。

2005年の分科会では、新繁殖地(初寝崎)へのコロニー定着という大きな成果を得て、鳥島内の事業をモニタリングに移行する方針が了承された。

2006年8月には、鳥島事業のモニタリングへの移行と、小笠原群島に第3の繁殖地を形成する内容を盛り込み、文部科学省、農林水産省、環境省の共同で新たな「アホウドリ保護増殖事業計画」を策定した。

2006年の分科会では、小笠原群島での新たな繁殖地の候補に、聳島列島の「聳島」が選定された。

鳥島の地図



<報道関係機関へのお願い>

火山噴火のおそれのない島にアホウドリの新たな(第3の)繁殖地を形成することを目的として、来年の2月頃、アホウドリの当年生まれのヒナ10羽を繁殖地である伊豆諸島鳥島から小笠原群島聳島まで約350kmをヘリコプターで運び、ヒナが巣立つまでの約3か月間、山階鳥類研究所の研究者が聳島に常駐して飼育を行います。

アホウドリの人工飼育はこれまで前例がなく、今回が初めての試みとなります。

アホウドリは人間に対する警戒心が非常に強いため、付近への人の入り込みがあった場合、ヒナへの影響が懸念されます。

聳島において取材等を行う場合は、実際に飼育が行われる現場まで近づくことをご遠慮いただき、飼育地点を見渡すことができる展望地(地図黄色)より、ご覧いただくと幸いです。

聳島に入島される場合には、国有林の入林許可が必要となります。この手続きには1か月程度要しますので、十分な時間的余裕をもって申請を行ってください。入林手続きに関しては、小笠原総合事務所国有林課(04998-2-2103)までご相談ください。

また同時に、本件に関する取材で聳島に入られる場合は、環境省関東地方環境事務所小笠原自然保護官事務所(04998-2-7174)まで、事前にご連絡をお願いします。

